

## 7) ミサ中説教 4月16日

朗読 使徒言行録3:11-26

福音 ルカ24:35-48

皆さん、この時期の教会の朗読は、まるで追い越し作戦展開中のようです。 どういう意味かといいますと、イエスは今復活されたところで、時系列で見ると聖霊降臨まで50日あるはずですが、福音書は時系列にそってイエスとの弟子たちや婦人たちとの出会いを語っていきます。しかし、使徒言行録ではスピードをあげて話が進んでいきます。これは、非常に興味深いことだと思います。

今日の朗読箇所は、聖霊が来られ、神が人々のそばに居たいと思われ、神が人間を解放したいと思われている時のことです。 ペトロの語ることは、驚くべきことです。今の時代、私たち司祭がペトロのように説教をしたなら、あらゆる方向から攻撃を受けるでしょう。ペトロはまず、「あなた方はイエスを引き渡し、ピラトが釈放しようとしていたのに、その前で拒んだ。人殺しを赦すように要求した。命の導き手である方を殺してしまった」と訴えました。

皆さん、私たち司祭がこのように、雷を落とすような説教をする場面を想像してみてください。 ペトロは雷を落とすことを躊躇（ちゅうちょ）しませんでした。まったく恐れを感じませんでした。

でも、なぜ彼は恐れを感じなかったのか？ もちろん、彼は聖霊に満たされ、聖霊の力が彼の中にあっただからです。イエスの中にあっただ同じ聖霊です。ペトロを何者も止めることはできませんでした。素晴らしいことです。聖霊によってペトロはすっかり変えられたのです。この同じ聖霊が私たちを変えてくださいますように！ 決して「人を訴えよ」と言っているわけではありません。恐れを抱かないように、しっかりとした確信を持って生きていけるように、大きな確信を持って真理を知ることができるように、私たちを聖霊に変えていただくのです。

ペトロはとても具体的に語っています。神も非常に具体的な方です。具体的な使命をイエスに与え、イエスは具体的に十字架上でそれを成し遂げました。象徴的ではないのです。

私たちも、みことばを具体的に受け止めましょう。具体的に私に何を語っているのかを黙想しましょう。 ペトロは、ここで語ったことを最初から話そうとは考えていなかったかも知れない、と私は思うのです。私たち司祭も説教中に、まったく考えていなかったことが口から飛び出すことがあります。もしかすると、ペトロもそうだったのかも知れません。そして、「私が自分で語るより神はもっと真理を私に語らせる」と思ったでしょう。神はまず、私たちが自分の状態、失敗、罪を知ることが望まれます。ペトロの言葉によって人々は自分たちの罪に気づきました。

私たちの今の時代はこれが問題です。「私は罪を犯したことはない。人を殺したことはな

い。盗んだこともない、」と思い、「ああ、良かった!」で終わるのです。しかし、私たちがこれまで生きて来た中で、どれほどの不正を、言葉によって、あるいは言葉を発しないことによってして来たでしょう。

聖霊に照らされ、本当の自分の状態を知ることは大きな恵みの瞬間です。たとえ、自分の状態を自覚して苦しみを感じたり、恥ずかしく思ったりしても、これは大きな恵みの瞬間なのです。これで、ようやく神は 私たちの傷に手を置くことができになるのですから。

ペトロは言います。「自分の罪が消し去られるように、悔い改めて立ち返りなさい。」その前に、ペトロが語っていることは、神と私たちを結ぶ慰めの金の橋と書いていいでしょう。「あなた方があんなことをしてしまったのは、無知のためであったとわたしには分かっています。」そして、「悔い改めなさい」と言うのです。

どの黙想会も、始まる時は私たちの心は硬い石のようです。この心はみことばによって柔らかくされ、砕かれていきます。私たちの今の状況、過去のできごとが、みことばを通して具体的に見えてきます。今まで奥に隠していたものの覆いが剥(は)がされ表に出てきます。

こうして具体的に罪を言い表すことができれば、ようやく、ようやく、神は罪を赦し、罰を取り去ってくださることができるのです。

今朝の動画でも言いましたが、今は告解が可能ではありません。ですから、思い出したこと、照らされたことをノートに書き取ってください。具体的に書いてください。例えば、車の事故を起こしたとします。「事故を起こした」というのは具体的ではありません。車のボディをかすって傷ができただけか、5人の死者がでたか、では大きな違いがあります。

罪の告白をするとき、「事故を起こした」的な告解をしてはなりません。いったいどういことが起こったのかを、具体的に言う必要があります。そうでなければ、敵である悪魔は、いつも私たちにレッドカードをチラつかせて「告解はしたけど、正確ではなかったな。何もかもは言わなかったな」と勝ち誇ります。

悪魔は「告発者」です。英語で言うなら、The devil accuses, but God excuses「悪魔は告発し、神は赦す」のです。神は罪を取り去りたいと思われませんが、私たちが罪を言わなければ、神にそれはおできにならないのです。私たちが具体的でいられるように、主が祝福してくださいますように。

見てください。これは、この黙想会に参加表明した人たちのリストです。さらにこの黙想会に参加を希望する方の名前をここに加えていきます。そして、ミサのときに祭壇に捧げます。

神は具体的な方です。あなたの具体的な望みを真剣に聞いてくださいます。

皆さんには家庭があり、仕事があり、それぞれに事情があるでしょうから、いつでも私のミサや聖体礼拝にあずかるのは難しいかも知れません。 大事なのは、朝に発信する短い考察（霊的エクササイズ）、ミサ中の説教を聞き、それを行い、毎日最低でも20分間沈黙の時間を持つことです。 もっと時間を取れる人は、40分、60分を沈黙のうちに過ごしてください。 もっと時間のある方は、毎日のプログラム(日本時間午後6時ミサ聖祭、午後7時-8時聖体礼拝)に参加してください。 しかし、事情が許さず参加できないとしても良心の呵責を感じる必要はまったくありません。 神は短い時間に私たちの心に触れ、癒すことがおできになります。

主がこの黙想会を祝福してくださいますように。

父と子と聖霊の御名によって アーメン